

香川大学教育学部

附属坂出学園だより



～ 地域に必要とされる学校園をめざして～

第73号

2024.3



中学校長として附属坂出学園に関わるようになって、あっという間に2年が過ぎ、私の任期も終わろうとしています。本学園での2年間はまことに貴重な、そして楽しい経験となりました。思えば昨年度は各校がコロナ禍の経験を咀嚼し教育活動の新たな形を慎重に前向きに作り始めた1年でした。そして本年度には、子供たち、保護者の皆様、そして全教職員の一致した熱意と努力によって、学園運動会を復活するところまで到達できたのは、本当に喜ばしいことでした。そして何よりこの2年間、私はこの学園の子供たちには大変なエネルギーがあり、まっすぐな心があり、豊かな可能性があるということを日々実感いたしました。子供たちには大きな希望があります。彼ら、彼女ら一人一人の自由で個性的な成長を、そしてそれを守り支える本学園の一層の発展を祈念しています。ありがとうございました。

香川大学教育学部附属坂出中学校 校長 笠 潤平

～人が集まり、みんながつながる学園を目指して～



『附ッザニア』での交流



附小フェスタ・オープンスクール



附中生と附幼稚園児との交流

<めざす子供の姿を大切に>

初めての劇遊び

【年少児】

初めての生活発表会。「やらされる」ではなく「楽しい」「やりたい」と思えるような『劇遊び』を心がけました。日々、楽しんでいる遊びを劇に取り入れたり自分のなりたいものに変身したりして、遊びの一つとして劇をすることで、保育者や友達とのやりとりがそのまま台詞や動きになりました。その日の気分で台詞や動きが変わる子供たちに合わせながら劇の流れを柔軟に変えていくことは、とても楽しかったです。

本番は、緊張を乗り越え、とびきりの笑顔で劇遊びを楽しむ子供たちの様子をご覧いただくことができました。



ちんぷいぶいのめえ～

楽しい劇づくり～思いやイメージを大切に～

【年中児】

昔話をもとにした劇づくりを楽しんだ年中児。お話の中に出てくる“ずしんずしん”や“チャリンチャリン”などの言葉の響きを気に入って、登場人物になりきって、何度も口ずさんでいました。「雪が降っているお話だから雪景色をつくろうよ」「穴に落ちるところは、下にマットを敷いてステージから飛び降りよう!」と、みんなで思いやイメージを膨らませながら、のびのびと表現する面白さを味わった子供たちです。



みんなで考えた“あったか～い”のポーズだよ!

自主・自律

共生・協働

探究・創造

大好きな附属幼稚園 90周年おめでとう

【年長児】

子供たちの大好きな幼稚園は、今年で90歳。そこで、「生活発表会では、今年しかできない劇にしよう!」と話し合いました。「幼稚園での楽しいことや大好きなことを春夏秋冬で表現するのはどうか」「幼稚園の90歳もお祝いする劇にしたい」など、27人の子供たちがアイデアを出し合って創作していきました。

春は、園庭の生き物たちが「お祝いケーキを作ろう」と思い付き、得意のダンスでケーキの材料をかき混ぜます。夏は、夕涼み会で楽しんだ忍者たちが登場し、楽しい修行を繰り広げます。秋になると太鼓台や獅子が、活気溢れる秋祭りを力いっぱい表現します。冬には、雪の妖精たちが得意の魔法で独楽に変身し、くるくる上手に回ります。その間に、春夏秋冬のなかまが協力し、少しずつお祝いケーキもできあがっていきます。

道具の移動や場面の移り変わりなどの裏方も、自分たちで行いました。おうちの人たちの笑い声や拍手に後押しされ、自信を高めていった子供たちです。



本物みたいな獅子舞だよ

6年 総合的な学習

『附ッザニア』へ、 青組さんをご招待!

11月13日に幼稚園の青組さんを招いて、『附ッザニア』のプレ演習を行いました。『附ッザニア』本番に向けて準備をしてきましたが、実際に青組さんに体験してもらうと、思っていた反応と違っていたり、上手く話が伝わらなかったりと新たな課題が出てきました。子供たちは、相手に合わせて話し方や体験の方法を変えて、みんなが楽しめるブースにするためにグループの友達と協力しながら試行錯誤していました。



こんな仕事があるよ

幼・小の教員の交流

子供たちの幼・小の円滑な接続のためには教職員の連携が不可欠です。私たちは日常の交流はもちろん、学期末にはそれぞれの労をねぎらって交流会を設けております。食事しながら子供のことについて語る素敵な時間となりました。



学期末の交流会の様子

1・2年生生活科 おもちゃで交流

2年生は、生活科の授業で1年生をおもちゃ祭りに招待しました。風で走る車やゴムで飛ぶロケットなど、ものの性質を利用して動くおもちゃを作成しました。試行錯誤を繰り返して、おもちゃ遊び方を工夫し、1年生に楽しんでもらうことができました。

後日、今度は、1年生が2年生を秋のテーマパークに招待しました。迷路や楽器、どんぐりごまなどのおもちゃを、秋のものを使って工夫して作っていました。2年生が楽しめるようにルールが考えられており、一緒に楽しく遊ぶことができました。生活科の授業を通して、1・2年生の仲をさらに深めることができました。



教えたり、教わったりする楽しい時間

緑化・美化委員会

樹木医さんと「桜復活プロジェクト」

学校の桜の木に元気がないことを心配した緑化美化委員会の子供たちが、木を元気にする方法を学ぼうと、樹木医さんをお迎えし、治療法を教わりました。根がしっかりとほることで桜が元気になることを聞いた子供たちは、木の周りの土を柔らかくしたり、竹の筒を埋めたりして、雨水が深く浸透するようにしました。元気になった木がたくさんの花を咲かせてくれる日を楽しみに、これからも大切にお世話をして、見守っていきます。



みんなで桜の木を守ろう

共創型探究学習CAN

今年度で、14年目を迎えるCAN。11月1日に行われた発表会では、今年度の優秀研究『CAN賞』に選ばれた四つのクラスターが、プレゼンテーションによるステージ発表を行い、投票によって最優秀研究『青雲賞』が選ばれました。

見事に『青雲賞』の栄冠に輝いたのは…

CAN2023最優秀研究『青雲賞』

クラスターNo.8 どのような光の色が光合成を活発にさせるのか

3年 桑野孔志 2年 新井宏幸 1年 大谷優太郎

でした。おめでとうございます。植物の光合成をテーマにした探究であり、クラスターリーダーの桑野さんにとっては、3年間取り組んできたテーマです。「日本の夏は暑すぎる！」この問題を何とかしたい。地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を何とかしたい。そこで目をつけたのが、植物の光合成でした。

皆さんが便利な生活を送れるのも、このような困りを何とかしたいという気持ちが探究へとつながった結果だと思います。CAN2024では、どのような探究が見られるか、楽しみです。

【最優秀クラスターへの受賞後インタビューより】

Q1：探究で最も苦労したことは何ですか？

「強いて言えば実験です。台風で学校が休みになって、CANの日Iがなくなりました。予定がギリギリだったのに時間がなくなってしまったので、実験に苦労しました。」

Q2：CANの日などをどのように活用し探究を進めていきましたか？

「CANの日Iがなくなってしまったこともあり、データがあまりとれていませんでした。そこで、CANの日IIでは、屋内でLEDを使った実験と、屋外で太陽光を使った実験を同時進行で行いました。また、実験中の空いた時間は、データをまとめて、過去のデータと比較するなど、効率よく行うように心がけました。」

Q3：3年間のCANの探究は自分にとってどのようなものだったのですか？

「ただそのテーマの答えを出すだけではなく、探究課題に対する仮説、仮説を立証するための実験などを仲間と協力し合って考えることができました。私にとってとても大好きな時間であり、大切な時間でした。」

【主な受賞クラスター】

◆校長特別賞 No.53 「ペットボトルロケット研究所4
～どうしてペットボトルロケットの飛距離は安定しないのか～」

◆CAN賞 No.31 「なぜ効率よく暗記ができないのか」
No.65 「綺麗な声とはどんな声なのか」

◆イグ青雲賞 No.19 「集会に適した座り方は？」

◆部門賞 No.39 「どうしてみかんの皮を再利用する人が少ないのだろうか？」（課題設定力賞）

No.82 「なぜ、私たちの生活の中にある身近なものを使った
環境に優しい食器用洗剤はないのか」（課題追究力賞）

No.45 「なぜ、火おこしをする人が少ないのだろうか？」（課題表現力賞）

No.26 「水で手を洗ってものかないハンドクリームはどうすれば作れるのか？」（チームマネジメント賞）



No.8の発表



No.31の発表



No.53の発表



No.65の発表

<めざす子供の姿を大切に>

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

ふれあい祭り

今年は4年ぶりに、一般のお客様をお迎えして開催しました。待ち望んでくださった方が多かったようで、地域の方や卒業生、元職員など大勢お越しいただきました。これまではなかなか会えなかった分、久々の再会に笑顔があふれていました。学習発表や作業学習の作品販売等を通して、交流できることに喜びを感じるとともに、通常の学習活動の大切さを再確認する学校行事となりました。

小学部

小学部では、親子交流として、お茶会を開きました。児童が点てたお茶を家族にお点前しました。「お茶碗を両手で持って運ぶ」「両手を床に付けて、お辞儀をする」など、作法に気を付けながらお茶を出すことができました。家族の方においしく飲んでもらえるように、練習から頑張りました。ふれあい祭りでは初めてのお茶会でしたが、家族みんながほっこりする素敵な時間になりました。



家族をおもてなし

お茶を点てる

中学部

中学部では、緑黄色社会の「Mela!」に合わせてダンスと3年生による書道パフォーマンスの発表をしました。元気いっぱいの演技に大勢のお客様から拍手をもらい、生徒たちは達成感で満ちあふれていました。また、作業販売では、「いらっしやいませ。ほくたちが作りました。安いですよ。」など、丁寧に作った製品や野菜をしっかりとアピールしながら、協力して販売することができました。今年は保護者の方だけでなく、地域の方や卒業生、大学生とたくさん来ていただいて大盛況！ふれあいゲームコーナーも大盛況でした。お買い上げいただいた方々、ありがとうございました。



ダンス&書道パフォーマンス



作業販売



ふれあいゲームコーナー

高等部

高等部では、初めて音楽と美術の成果をステージ発表し、美術では3000枚の色紙で作った「やまちゃん・ももちゃん」を、音楽では打楽器を使ったリズム打ちパフォーマンスを披露しました。タブレット端末を利用して楽譜を共有し、お互いのタイミングを確認しながら工夫して発表しました。模擬店「まうてんぴーち」では、Googleスプレッドシートの共同編集で受付・支払い・商品の準備・受け渡しを効率的に行い、生徒たちが自信をもって役割に取り組む姿が見られました。作業販売も盛況で、各班が制作した製品を大勢の方に購入していただくことができました。



ピクセルアート



リズム打ちパフォーマンス



模擬店 まうてんぴーち

第2回学校保健安全委員会（報告）

心の支援部の取組

思春期に起こりやすい起立性調節障害について
子どもの本音ってなんだろう？ ～学校に行きたくないと言ったら～

○思春期に起こりやすい起立性調節障害について

学校医：佐藤 融司先生



思春期に多い自律神経機能失調症としての起立性調節障害のメカニズムや症状について、とても分かりやすい説明をしてくださいました。「起立性調節障害」を初めて聞いた方が多く、「知らなければ怠けていると思っていた」と感想に書かれている保護者の方も多くいました。自分の子供ももしかしたら…と気になった時は、血圧測定をして、朝の血圧が低くないか調べてみてください。また、対応策として、水分摂取と軽度の運動を意識して行うことが良いそうです。



○子どもの本音ってなんだろう？ ～学校に行きたくないと言ったら～

SC入江 輝先生 SSW藤澤 茜先生

「子どもの本音って何だろう？～学校に行きたくないと言ったら～」をテーマに講話とワークショップを行いました。

SC入江先生からは、子供のころやSOSに気づくために、普段からのコミュニケーションや「安心・安全な居場所にする」との大切さをお話ししてくださいました。そして、子供の気持ちを受けとめるための対応について、どのように話を聴いたらよいのかを実演を交えて講話してくださいましたことで、大人もセルフケアと協力が重要であることを学びました。

SSW藤澤先生からは「色」を題材にしながら、対話を楽しむワークを行いました。親子の将来像を色で例えた際に、親子それぞれの色は全く異なるけど、お互いの意見や思いにうまく折り合いをつけて「この色になったらいいな」と1色を選んでいる方もいました。「色」は対話の一つのツールで、「どうしてその色？」とその背景を質問することによって、色から受けるイメージが異なることを改めて気づけた時間となりました。



第2回学校保健安全委員会は、40名近くの保護者の方に参加していただき、とても有意義な会になりました。ありがとうございました。いただいたアンケートをもとに、今後の内容や会の持ち方を考え、子供にとってそして保護者の皆さんにとって道標となる機会としたいと思っています。

心の支援部からは「教育相談だより」を毎月発行しております。そちらには相談日も載せてありますので、気になっていることがあれば気軽にご連絡、ご相談ください。

卒業後の豊かな生活を支える支援

～小・中・高の学びをつなぎ、社会参加に向けた学習内容の充実をめざして～

令和6年1月26日（金）第21回教育研究発表会を開催しました。6年ぶりの対面形式の研究発表会となりました。県内外から大勢の皆様をお迎えし、本校の研究授業を見ていただき、授業者と語る会等でたくさんのご意見をいただくことができました。

本校では、児童生徒の不器用さ・動きのぎこちなさの実態から「姿勢・身体の動き」についてのアセスメントを行い、作業療法士などの外部専門家と連携してどんな指導を行えばよいか考えて各学部で個別・集団指導に取り組みました。あわせて、国連からの日本への勧告など社会的背景を基に、インクルーシブ教育システムの構築に向けて特別支援学校で何ができるのか考えました。本校の校訓「自立」と社会参加をめざし、卒業後の「豊かな生活」への支援を考え学校全体で取り組みました。

各学部の研究授業を参観いただき、授業者と語る会では自由に話し合うことができました。部提案や授業説明の後、指導助言の先生方よりご助言をいただきました。

講演では、鹿児島大学法文教育学域教育学系障害児教育学科教授肥後祥治先生より『からだ』と『社会』を『学校』は、どう繋ぐのか？』と題してお話をしてくださいました。自立観や障害者観を捉え直し、そこに実践を結び付けていくことの大切さが分かりました。

シンポジウムでは、6人の先生方に御登壇いただき、「特別支援学校に期待されること」と題して、大学、小学校、特別支援学校、作業療法士、卒業後の関係機関それぞれの立場から特別支援学校の役割について討論が行われ、現在の状況での特別支援学校の存在意義について考えることができました。今後も実践を重ね、全国に発信していきたいと思ひます。



小学部 体育



中学部 生活単元学習



高等部 総合的な探究の時間



授業者と語る会



講演



シンポジウム

幼稚園

自分の命は自分で守るよ

坂出警察署生活安全課の方を招いて『安全教室』を行いました。

不審者訓練の後、“安全・安心まちづくり協力隊”の方によるパペットを使った人形劇があり、命を守るお約束を楽しく学びました。また、年長児3人が代表となり、不審者からあらゆる甘い誘いをかけられても「いや！」と断ることができるか、大きな声で「たすけて」と言えるかなど、実際に体験しました。そして『おおごえメーカー』を使って、全員で「たすけて！」と言える練習をしたり、大切なお約束をみんなで歌って踊ったりもしました。歌詞の中に『いのちはひとつだけ じぶんでまもるんだ』とあるように、子供自身にも自分を守る力を身に付けるよい機会になったと思います。

最後は、パトカーに乗せてもらったり、ヘルメットや制帽を被らせてもらったりと、本物の警察官の気分を味わった子供たちでした。



「いらない！」って断ります

<人が集まる学園に>

- ・ 地域の方や専門家の積極的な活用
- ・ 地域の方を招いた生涯学習の場づくり
- ・ 地域と共に創る安心・安全な町づくり

中学校

CANの探究過程における地域とのつながり

総合学習CANでは、地域の方や専門家の方との様々なつながりの中で、探究を深めています。今期は、廃棄野菜をなくすために産直市で生産者のアンケートをとったり、犬の殺処分を0にするために行政の取組をインタビューしたり、災害時の避難所で子供がパニックにならないおもちゃを考えるために幼稚園訪問を行ったりしました。また、自分たちの提案を地域に発信もしています。

ご協力いただいた地域の方々、ありがとうございました。

SDGsについて考える

技術・家庭科では、3年間、様々な体験を通して、SDGsについて学んでいます。1年生「浴衣着方教室」では、NPO法人楽しく着物を着る推進会議の方々の指導のもと、浴衣の着付け体験を行い、洋服との違いから日本の伝統である和服への関心を高めました。2年生の「食べて学ぶSDGs」では、代替食品企業の方を講師にお招きし、プラントベースフード（植物性食品）で実際に調理実習を行い、社会の問題と食のつながりについて学びました。こうした取組を通して、生徒たちは、持続可能な社会に向けて自分たちができることを考え、主体的に行動し実践していきたいと実感していました。



坂出市役所へ提言



自分で浴衣を着てみて



大豆ミートを使って調理

小学校

福王寺先生絵画指導

12月11日（月）

「子ども・夢・アート・アカデミー」のワークショップが行われました。3年生は、日本画家の福王寺一彦先生の作品に込められた意味や使っている絵の具の種類などの話を聞いた後、日本画でも使われている「土絵の具」を作って、思いのままに想像したことを手で描いていきました。様々な土の色に気付いたり、その感触などを楽しんだりしながら表現する姿が見られました。全校生も福王寺先生の作品を間近で鑑賞し、解説を聞きながら「ホンモノに触れる」貴重な体験は、自分の心を豊かにする機会となりました。



本物にふれて・・・

穴吹医療大学校 歯磨き指導

穴吹医療大学校の学生による歯磨き指導が3年ぶりに行われました。

低学年では、最初に生えて来る永久歯「歯の王子様」の磨き方、中学年ではおやつを取り方と噛むことの大切さ、高学年では歯ブラシ以外のケア用品を使った歯のお手入れ方法について、各学年の実態に合わせた学習を行いました。自分の歯の生え方に合わせた歯の磨き方について具体的に知るために、歯に染め出し液を塗り、歯垢の付き方を視覚的に捉え、丁寧に磨くコツをつかんでいきました。



あれ？磨けているかな？

後期現場実習

高等部では、日頃の作業学習を中心とした授業を通して培ってきた働く力を試すとともに、卒業後の進路に備えて社会の職業現場で働く経験を重ねるために、現場実習を実施しています。1年生では「働くことの大切さを知る実習」として年1回、1週間の集団実習に取り組んでいます。2年生は「自分の力を試す実習」として年2回、2週間の集団実習に取り組んでいます。3年生は「進路を決める実習」として年2回、2週間と4週間の個別実習に取り組んでいます。毎年、地域の企業・福祉事業所の方々に実習を受け入れていただき、仕事のやり方を丁寧に教えてもらったり、一緒に活動に取り組んだりすることで、学校現場ではできない貴重な経験をすることができています。例えば、1年生の現場実習先でお世話になっている坂出市役所では、図書館や体育館など坂出市の様々な施設での実習も経験することで、普段自分たちが暮らす地域の役に立つことの大切さを学ぶ機会にもなっています。また、実習でお世話になった方々には、本校で11月に行っているふれあい祭り（学校祭）に招待し、作業販売で生徒が作った商品を購入してもらったり、模擬喫茶店を開いておもてなしをしたりすることで交流を深めることができています。



坂出市図書館での実習の様子



製麺工場での実習の様子



食品加工場での実習の様子

松 韻 会

保護者による進路学習（中学校）

12月2日（土）の中学校オープンスクールの日、1・2年生に向けて「保護者による進路学習」が行われました。平成27年より毎年保護者が講師となって職業の内容を説明する活動を行っています。今年は講師として6名の方にご協力頂き、仕事の内容などを体験を交えて話して頂きました。みんな熱心に聞いたり質問したりと、楽しみながら多様な職種について体験する事ができました。



坂出市PTAソフトボール大会（幼稚園・小学校・中学校）

12月10日（日）に総社グラウンドにて坂出市PTAソフトボール大会が開催され、附属坂出学園から3チーム（幼・小・中で各1チーム）が参加しました。例年非常に寒い中での開催ですが、今年は非常に暖かく、絶好のソフトボール日和での開催となりました。附属坂出学園から参加した3チームはいずれも1勝1敗の成績で惜しくも優勝には届きませんでしたが、大会当日だけでなく11月から合同で実施してきた練習を通じて、多くの保護者・先生の方々との繋がりを深めることができました。



土曜メンテナンス（幼稚園・小学校）

今年度の土曜メンテナンスは12月16日（土）に幼・小同日開催で行われました。幼小中あわせて70名以上の方々が参加してくださり、普段はできない高い場所など隅々まで綺麗にさせていただきました。

「上手にできたね」と言葉をかけながら作業を楽しみ、綺麗になったことを親子で喜ぶ姿はとても印象的でした。子供たちが気持ちのよい環境の中で遊びながら学んでいけるよう、今後も環境づくりのお手伝いをしていきたいと思ひます。



親 和 会

2023水のフェスティバルin府中湖

10月1日に府中湖カヌー競技場で4年ぶりに開催されました。たくさんの方が来場されました。会場ではドラゴンカヌー大会やステージでのダンスの発表等、大変盛り上がっていました。親和会からはバザー販売という形で参加しました。「おにぎり」と「アイスクレープ」を販売し、大変好評でした。特にアイスクレープは早々に売り切れてしまいました。その隣では本校中学部、高等部の作業班で作った製品も販売しました。こちらでも大変好評で、多くの方に製品を見てもらい、たくさんの方が買ってくれました。高等部は生徒2名が販売員として参加し、地域の方々と触れ合うことができました。



編集後記

withコロナとしての1年間、試行錯誤を重ねながら、各校園の教育の在り方を工夫したり、異校種間交流や地域交流に取り組んだりして参りました。何より大切なことは、子供たちの笑顔や学びの充実を一番に考えること。このことを常に忘れず、附属坂出学園の充実と発展のために頑張っていきたいと思ひます。保護者をはじめ関係の皆様方、いつも温かいご支援とご協力をいただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

発行年月日：2024年3月吉日

発行事務局：香川大学教育学部坂出学園